

*京都府青少年育成協会会長奨励賞

「私にとってうたうこと」

舞鶴市立城北中学校 3年
中 嶋 樹

みなさんは、どんな時に歌を口ずさみますか。私は、楽しい時や嬉しい時に歌を口ずさみます。また、スーパーなどに買い物に行くと音楽が流れ、テレビをつけてもCMソングやドラマの主題歌・挿入歌が聞こえてきます。そう考えてみると、歌や音楽は私たちの身近にあると思いませんか。

ところで皆さんは「群青」という合唱曲を知っていますか。私がこの曲と初めて出会ったのは去年の秋、城北祭の時です。当時の3年生が学年合唱で歌われたのですが、その時はこの曲がどんな思いで作られたのか知らなかったので「すごくいい曲だな。」「私も歌ってみたいな。」と思っただけでした。

次にこの曲と出会ったのは今年の3月。友達に誘われ長岡京ホールで毎年行われているハーモニー・フォー・ジャパン復興支援コンサートに参加した時のことでした。ハーモニー・フォー・ジャパンとは、今年で5回目を迎えた東日本大震災復興支援コンサートです。毎年福島県からも、被災された小高中学校の関係者が参加してくれます。私は、舞鶴市の中高生で構成された合唱団の一員として参加しました。

初めは、ただ歌が好きというだけで参加したので練習に身が入らず、なかなか真剣に取り組むことができませんでした。しかし、その時、指導者の方が、「群青」が作られた理由、完成までの経緯を教えてくださいました。

「群青」は、6年前の東日本大震災で被災された、福島県小高中学校の皆さんによって作られた曲です。遠く離ればなれになった仲間への思いを綴った作文や日記、他愛のないおしゃべりを先生が書き留め、それをつなぎ合わせて大筋の歌詞ができました。

ずっと一緒に過ごしてきた仲間を一瞬にして失った、たくさんの人たち。今でも自分の故郷へ帰ることができない方や、大切な人を失った心の傷が癒えていない人たちがおられること……。そんなことを改めて考えてみると「この曲を軽い気持ちで練習してはいけない。」「もっと真剣に取り組まなければ。」と思うようになりました。

それからは、話したこともなかった同じパートの人に声をかけ、「群青」について感じたことや思ったことを話し合ったりしました。そうすると、さらに練習をするのが楽しくなり、同じメロディーを奏でることの素晴らしさを実感できました。

ところで、「群青」には次のようなフレーズがあります。『またねと手を振るけど、明日も会えるのかな。遠ざかる君の笑顔、今でも忘れない』—これは、私の一番好きなフレーズです。ここから「震災によって当たり前だった日常を奪われてしまい、一緒に勉強し

てきた仲間と離ればなれになってしまったけれど、笑い合った日のことを忘れない。」という気持ちを感じます。私はこのフレーズを歌うたびに、被災された方たちの思いを、合唱という形で伝えたい、と思っていました。

これまで、私にとっての「歌うこと」は、あくまでも趣味のひとつであり、「自分の中の感情や思いをぶつける」という、自分のためだけのものでした。しかし、「歌うこと」には、歌詞に込められた思いを届けるという役割もあることに気づきました。

「歌うこと」それは自分の思いを伝えること。その曲の思いを伝えること。適当に歌うのではなく、曲に込められた思いを、自分の声にのせて一人でも多くの人に届けたい……。

ハーモニー・フォー・ジャパンの活動は、私にとっても、人と人との絆を感じさせる経験となりました。性別や年齢、住んでいる場所も違う人たちが心をつなげて同じハーモニーを奏でることができる。それはすごいことだと思いませんか。

「歌は人の心をつなぐ」—このことを忘れずに、大好きな合唱を続けていきたいと思っています。